

3. 活動内容

◎活動項目別

ESD 復興教育

- ・ 6/8 (水) 「小・中学校の学びと放射線教育」福島大学 岡田努教授 (1 学年)
- ・ 7/19 (火) 公開 ESD 校内発表会 (全学年)
- ・ 8/21 (日) いわき地球市民フェスティバルにて研究発表
- ・ 10/1 (土) 日本地理学会にて研究発表@東北大学
- ・ 10/19 (水) 福島に関する新聞記事を集め、まとめる授業 (1 学年)
- ・ 11/5 (土) サイエンスアゴラにて研究発表@お台場
- ・ 11/25 (金) 第 4 回ユネスコスクール東北大会にて研究発表@宮城教育大学
- ・ 12/3 (土) 第 7 回 ESD 全国大会@金沢
- ・ 12/18 (日) サイエンスキャッスル@東北大学

国際理解教育

- ・ 7/8 (金) ダートマス大学生来校
- ・ 7/28~8/7 夏期海外語学研修 in オーストラリア
- ・ 11/17 (木) アフリカ諸国教育関係者来校 (各学年授業見学等)
- ・ 1/18 (水) 永遠瑠 (トワリ)・マリールイズさん講演 (1 学年全員、2, 3 学年希望者)
- ・ 1/25 (水) JICA 青年海外協力隊出張講座 (1 学年)
- ・ 5 月~2 月 「Food Project」インド、インドネシア、タイと日本の各学校での協働学習
- ・ 12 月~1 月 国際協力に関する講座

他校との交流

- ・ 11/29 (火) インド「Little Flower High School」と Skype での交流会
- ・ 12/7 (水) ~9 (金) JICA グローバルキャンプ宿泊研修【ふたば未来学園との連携事業】

地域とのつながり

- ・ 5/7 (土) いわきおてんと SUN 企業組合にて太陽光パネル製作体験会
- ・ 6/8 (月) 浪江町役場二本松出張所にて震災当時の聞き取り調査
- ・ 10/21 (金) 二本松南小学校にて郷土料理ざくざくの調査研究
- ・ 10/25 (火) 地元レストラン『千の花』にて郷土料理ざくざくの調査研究
- ・ 10/26 (水) 武藤さん宅にて郷土料理ざくざくの調査研究
- ・ 11/8 (火) 道の駅安達において郷土料理ざくざくの調査研究

ここに挙げた取り組み以外にも ESD に関連した事業を多数実施している。ESD の取り組みにより、自らの進路希望を見つめ直した生徒もいる。次年度以降も ESD の機会を増やし、より多くの生徒達が自ら学びを深められるよう魅力的な活動を進めていきたい。

1) 本校におけるユネスコスクール活動の位置づけ

◆ ESD のねらい

各問題は単純ではなく、様々な要因が絡み合っていることを認識し、主体的に問題を解決する姿勢を育むことをねらいとする。

これらの活動から持続可能な社会を構築できる人材の育成を目指し、これからの時代を力強く生き抜く力を身につけさせる。

◆ 活動体制

全校生に対しては、環境問題やその課題解決に向けて判断し、行動できる力を養う機会を作るために、総合的な学習の時間、情報（2年次）の時間を用いてプレゼンテーション学習を実施している。

また、より ESD を深く学びたい生徒に対しては、自然科学部が環境について研究活動を継続して行っているほか、行事の際に有志生徒を募っている。

2) 具体的な学習・活動内容と授業時間等

学習プログラム

学年	時間	学習内容
1年	総合的な学習の時間	講演「放射線教育の現状と課題 —これからのストーリーを考える—」(6月) グループ学習「持続不可能な課題のマインドマップを作ろう」(10月) グループ学習「新聞を使って課題を見つけよう」(10月) 個人学習「福島の記事をまとめよう」(11月) JICA 講演「国際理解講座」(1月) 講演「教育の大切さ～ルワンダ・日本の経験を踏まえて～」(1月)
2年	情報 総合的な学習の時間	プレゼンテーション学習 「持続可能な開発について考える」(4~7月)
3年	通年	学習内容をふまえたキャリア教育
全学年	公開 ESD 校内発表会	プレゼンテーション発表・聴講 (7月19日)
自然科学部	放課後	持続可能な開発に関する研究 「生分解性プラスチックの作成と評価」「曇天時における太陽光発電の効率化」「デジタル地図を用いたハザードマップの作成」等
有志生徒	随時	ダートマス大学生との交流会 (6月) インドネシア・インドとの国際協働学習プロジェクト「ESD Food Project」 オーストラリア海外語学研修 (8月) アフリカ教育関係者との交流会 (10月) JICA グローバルキャンプ (12月) 大学生による国際協力に関する出前授業 (1月・開発教育の課外授業内)

◆ 公開 ESD 校内発表会

2年次では、「情報」や「総合的な学習の時間」を用いて、3本柱の中にある持続可能な開発における課題を設定し、その解決法を模索・提案する活動を行う。グループで課題について調査し、その解決策を議論して求めた自分たちなりの最適解をクラス内で発表し、クラス代表グループを決定した。

各クラスの代表グループ、家庭クラブ、自然科学部、海外研修オーストラリア班、そして昨年度行われた Food Project 班の、計 14 班によるバラエティに富んだ発表が 2016 年 7 月 19 日に二本松市民会館で行われた。

H28年度 公開発表会 7.19(火) @二本松市民会館



◆ オーストラリア海外語学研修

7月28日から8月8日まで、今年で2回目となる安達高校オーストラリア海外研修を実施し、20名の生徒が参加した。今年はシドニーで、現地の私立学校に通い、ホームステイを行った。異国の食文化や宗教、街並みを直に見た生徒からは、「楽しかった」、「また海外に行きたい」、「次は途上国に行きたい」などの感想が聞かれた。



◆ JICA グローバルキャンプ

福島県立ふたば未来学園高校が主催する『JICA グローバルキャンプ 2016@いわき海浜自然の家』に12/7(水)~9(金)の3日間、本校生徒15名が参加した。



講座内容は「異文化理解」「メディアリテラシー」「貿易ゲーム」「バヌアツの災害と防災」「再生可能エネルギー」「福島県と関係の深いアフリカの国々」「スポーツと健康について」「青年海外協力隊シミュレーション」「協力隊訓練模擬体験」「より良い安達高校ライフを作ろうミニ・プロジェクト」「20秒アクションスピーチ」など多岐に渡った。生徒たちは新しい知識をワークショップやディスカッションで吸収し、また、ふたば未来の生徒たちとの交流もあり、非常に濃密な3日間となった。そして最後の20秒スピーチでの堂々とした発表は目を見張るものがあった。

◆ 開発教育の課外授業

12月~1月にかけて、JICA 教師海外研修にてガーナへと行った教員による開発教育の課外授業が行われた。「石井が考える海外の魅力とは?」「開発途上国について知ろう」「開発途上国と先進国の経済格差」「開発支援について考えよう」「大学生の海外ボランティア体験を聞こう」の全6回実施し、生徒からは「青年海外協力隊になりたいという気持ちが寄り強くなった」という声が聞かれた。



大学生2人による授業の様子

◆ ESD フードプロジェクト

昨年度から継続の2年生メンバー3名が中心となって活動した。今年度は食文化ということで、地元の郷土料理「ざくざく」について調査研究を実施した。初めに、夏休み期間に地元の資料館を訪問し、その歴史的、全般的な知識を得た。それを踏まえて、現在における「ざくざく」の意義、定義、調理法等を調査するため直接地元の方々、4カ所でインタビューを行った。次に神奈川県立有馬高校、Little flower High School, Amalina Junior High School と Skype meeting を行い、調査研究内容を共有した。そこで郷土料理のレシピ交換や、お互いの国の材料について、健康面での影響を発表した。

(2) 活動時間について（下記から選択して下さい。）

- 通常の授業時間を使用（総合的な学習の時間を含む）
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他（

）